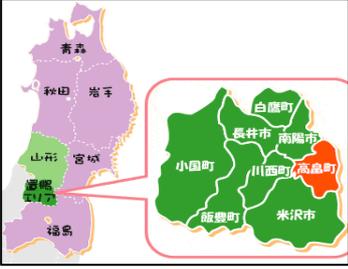


連携自治体紹介シート

自治体名	山形県高島町
自治体の概要	<p>山形県の南側の市町で構成される「置賜地方」の町の1つで、新潟市、福島市、仙台市、山形市の間に位置しており、古くから交通の要所として活用されてきました。JR高島駅は、山形新幹線「つばさ」の停車駅となっており、東京駅から乗換なしで2時間20分と、関東圏からのアクセスも良好です。</p> <p>令和5年3月時点での人口は約2万2千人で、面積は約180.3km²。米や果樹といった農業のほか、昭和初期から製糸工場や食品加工の歴史があり、現在も製造業が盛んな町です。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>
アクセス方法	JR 東京駅－高島駅（新幹線）：片道約2時間20分 10,750円（R5.3月現在）
主な特色 PRポイント	<p><イベント></p> <p>健康を祈願して雪の降る中、長さ4m、重さ600kgを越す「大わらじ」裸の若者が担いで町内を練り歩く「大日如来わらじみこし祭り」や、様々な神輿と民謡が披露される「青竹ちょうちんまつり」、カーマニア必見の名車たちが大集合する「クラシックカーレビュー」など、地域を盛り上げる魅力的なイベントが随時開催されています。</p> <p><特産品></p> <p>米、ぶどう、りんご、ラ・フランスなど、様々な農産物が豊富な農業のまちでもあります。(株)高島ワイナリーや町内3か所にある酒蔵などをはじめ、農産物を活かした食品加工業も盛んです。また、有機農業の先進地としても知られ、農家による農業体験活動なども全国に先駆けて行っています。</p> <p><文化・伝統></p> <p>国指定史跡の「日向洞窟」をはじめ、縄文時代から人々が生活していたことを物語る貴重な洞窟・史跡が点在しています。また、「泣いた赤鬼」などで知られる童話作家「浜田広介」の出身地でもあり、町の公式マスコットキャラクター「たかつき・はたつき」は、「泣いた赤鬼」をモチーフに生まれたキャラクターです。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>

連携自治体紹介シート

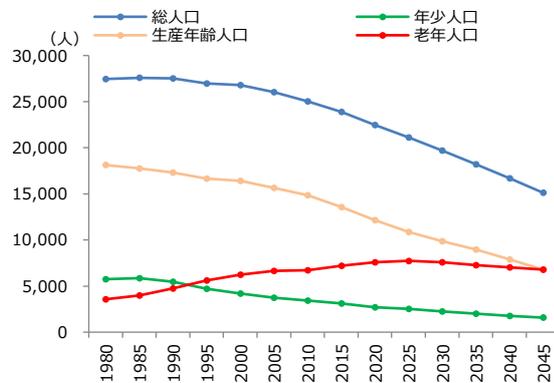
当町の出生数は平成28年は150人、令和2年には123人、そして令和4年は117人と、減少が続いています。

町の人口も22,000人前後まで減少し、地域の担い手不足といった影響を及ぼし始めています。

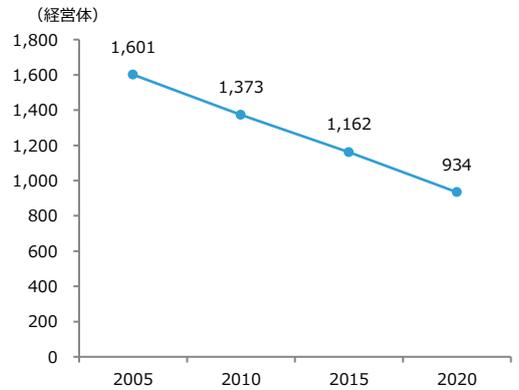
特に、町の主たる産業の一つである「農業」は、農業経営体数が2005年の1,601から2020年には934と、15年間で4割以上が離農している状況にあり、今後の耕作放棄地の急激な増加等が懸念されます。

主な地域課題

人口動態



農業経営体数



出展：地域経済分析システム「RESAS」